



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2025

5月30日 号

206
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

されど3分



副会長 布 川 真理子

桜の季節も終わり、新緑の眩しい季節となりました。黄色のランドセルを背負って登校する新一年生を見かけては、娘にもあんな頃があったな～とか、職場の新人さんと挨拶を交わせば、自分も多分こんな感じだったのかな～とか色々と思い馳せてしまいます。

医療の世界は日進月歩といいますが、一般撮影やCT、MRIなどの装置の進歩は言わずもがな、診療放射線技師の仕事内容までもが写真撮影のみならず静脈路確保やSTAT画像報告などと広がりつつあります。当院では造影検査数がそれほど多くなく、診療放射線技師が静脈路確保を常に行っているわけではないので、いざ確保となると私など未だに緊張して足が震えますし時間もかかります。看護師さん達にはメリットが大きいようですが、静脈路確保、撮影、抜針、3D作成、STAT画像報告、次の検査準備をワンオペでとなると、本来の業務に集中させて欲しいというのが本音です。タスク・シフト開始にあたって、元看護部長から「確保する“たかが”3分ぐらい取れるでしょ」と言われ、その3分を短縮するのにどれだけ苦労しているか、その3分があればじっくり撮影の計画を立てたり、より分かりやすい3Dに工夫したり、しっかり画像を確認したり出来るのに…診療放射線技師にとっては“されど”3分なことが全く理解されず、ただボタンを押しているだけだと思っているのかと怒りと悲しみで一杯になりました。時間と人員に余裕がある時という条件で落ち着きましたが、その日の夜は悔しくて一睡もできませんでした。私は、より優しい接遇、より良い条件とより良い技術など、小さなbetterが沢山詰まってBestな画像が出来上がると思っています。診療放射線技師に対する他職種からのイメージも進化させたいものです。

さて、令和5年度より福島県診療放射線技師会 副会長として2年間務めさせていただきました。任務にあたり、つくづく自分はシングルタスク人間だと痛感しました。勤務と会務と家事を同時にこなすのは至難の業で、昼休みと院内待機の日、家族が寝た時間に作業することが多くなりました。ちょうど子供の高校受験の年と重なったため、大した協力もしないくせにやたらと心配して口出しするウザい親になっていたのではないかと思います。

そして、会の運営には沢山の方の労力とご厚意が働いていることを実感しました。若い時分からもっと勉強会や研究会に参加しておけばよかったと、とても後悔しています。何故ならば、会員の皆様に参加してもらえた時、とても嬉しくやりがいを感じられたからです。微力にしかありませんでしたが、役員として携われたことはとても良い経験となりました。陰に陽にご協力くださいました役員の皆様、会員の皆様、職場の皆様、そして家族に深く感謝いたします。

今年度より福島県診療放射線技師会も新体制となります。更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。私も今後は一会員として積極的に勉強会など参加したいと思います。

2年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 加藤 貴弘

会員の皆さま、こんにちは。約2年ぶりの紙面への登場となりました加藤貴弘と申します。今年度も引き続き学科長を拝命することとなり、微力ながら努めてまいる所存です。新年度の始まりにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

おかげさまで保健科学部は今年3月に開設から丸4年が経過し、第1期生たちを無事送り出すことができました。学生たちはそれぞれに自分の道を見つけ、次のステージへと進んでおります。その過程では、県内の多くの医療機関の皆さまに臨床実習の機会をいただき、学生たちは現場で多くの学びと気づきを得ることができました。このような貴重な経験を通して、少しずつ成長していく姿を見守ることができたのは、ひとえに皆さまのお力添えあつてのことと、深く感謝申し上げます。

また、本年度より大学院修士課程を新たに開設いたしました。教育・研究の幅が広がる中で、私たち教職員も一層の努力が求められることを痛感しております。現場で求められる実践的な知識や応用力に加え、人としての成熟やしなやかな感性を育むことにも引き続き丁寧に取り組んでまいります。

“これからの診療放射線技師教育はどうあるべきか？”これは私自身が教員になる以前から自問自答し続けた問いでもあります。私は常々、サッカーにたとえて臨床現場こそが診療放射線技師のメインフィールド、ピッチであり、そこで滝のように汗を流しながら躍動するプレーヤー（診療放射線技師）こそが主役であるはずだと考えてきました。私たち教員は、裏方としての役割を担っているにすぎません。加えて、患者中心の医療においては、知識や技術だけでは不十分であり、何よりも人としての温かさ、思いやる心が必要不可欠です。クールヘッドにウォームハートを兼ね備えた、真に社会に貢献できる診療放射線技師の育成こそが急務であると考えています。そして医療は継続性が重要であり、そこには経営的マインドも求められると思います。確かな知識、技術に加え人間性と経営的視点を兼ね備えた人材の育成こそが社会の要請ではないかと感じています。それは決して容易なことではありませんが、大切なことは目指すべきビジョンを明確にし、それに少しでも近づけられるよう日々努力を積み重ねることだと思います。私たち教職員もまた裏方として“滝のような汗”をかいて努力してまいる所存です。

まだまだ至らぬ点も多く、これまでの4年間はご期待に添えない場面も少なからずあったことと存じます。そうした中でも、皆さまからいただく温かなご助言が私たちの大きな支えとなっております。これからもどうか、遠慮なくお声をお寄せいただければ幸いです。

今後とも、地域の医療を支える人材の育成に誠心誠意取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。





～ 県会長 「オンレコ」 ～

1 「理事会電磁的表決」

3月30日 4月26日

次年度事業計画や予算について電磁的表決で賛同いただきました。それを基にしてPOSS（電磁申請）を入力し提出しました。

後日、定時総会での表彰についても電磁的表決で賛同いただきました。

2 「JART代議員への立候補」

4月1日

2025-2026年度の代議員は、私と鈴木副会長、遊佐雅徳氏（次年度理事）の3名で立候補届を提出しました。また補欠代議員には久米本理事が立候補届を提出しました。JART会誌4月号で県選出4名全員の当選が決まり掲載されました。

3 「TCRT第1回役員会」

4月28日

Webでの開催でTCRT2025を中心にJARTとJSRT側で話し合いを行いました。インボイス制度については、猶予期間がありますが福島県開催時は切れます。この件についてはまだ時間はありますが、今後十分な検討が必要です。

4 「片倉前会長の葬儀」

4月28日

会長としてご霊前にて弔辞を読ませていただきました。CT検査の第一人者でヘリカルも確立にご尽力いただいた大先輩です。県技師会の公益社団法人化を積極的に進めていただきました。個人的にも理事や会長時も色々とお世話になった経緯があります。心よりご冥福をお祈りいたします。

5 「会報・記念誌の発送作業」

5月5日

13時から開始しましたが、私の段取りが悪く19時までかかりました。お手伝いされた理事や事務局の方々には深く感謝を申し上げます。来年度は計画的に効率よく行うようにいたします。

最後に

今年度の定時総会では理事に立候補していませんので、これが最後の会長オンレコになります。拙い文章ですが今まで読んでいただき感謝をいたします。もしニュース原稿について今後余白があれば、コラムでも記載したい希望はあります。

地区だより

浜通地区

「令和7年度 浜通地区協議会 全体会」開催

令和7年4月26日（土）にいわき市医療センターにて開催されました。

全体会後の特別講演では、弘前大学 被ばく医療総合研究所 放射化学・生体影響評価部門教授 赤田尚史先生より「トリチウムとは-その基本と生物影響-」について、ご講演をいただきました。水素の一種であるトリチウムは、私たちの身近に存在しています。また、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた作業が進められていますが、その中でもトリチウムを含む処理水の海洋放出と環境モニタリングが注目を集めています。赤田先生のご研究が、福島県の復興と風評被害低減に貢献いただけるものと期待しております。（白土）



編集後記

新年度が始まってから1ヶ月が経過し、仕事や生活にも慣れてきた頃です。新しい環境に適応し、目標に向かって進む姿勢が求められる時期でもあります。私も、造影時の静脈路確保を事故のないようにやり遂げる目標を掲げ、業務を遂行していく所存です。新しい業務をやり遂げましょう。（長谷川）